

シラバス DP って何のためにあるの？

科目名	DP って何のためにあるの？ — 新任教務担当者のための教学アセスメント・データ活用のはじめの一步
対象	首都圏・私工大教務連絡会 初任者研修の参加者（教務系部署の初任者）
日時・場所	2026 年 10 月 9 日(金)15:30～17:00 東京都市大学 世田谷キャンパス 1 号館 13N 教室
形式	講演 60 分 + グループワーク 30 分(5～6 人の班、他大学の参加者と同じ班)
担当	白鳥 成彦(東京都市大学 共通教育部 教授 / 教育開発機構 教学アセスメント・IR センター長)
授業の概要	DP(卒業認定・学位授与の方針)は何のためにあり、日々の教務の仕事とどうつながっているのか。3 つのポリシーの成り立ちと認証評価の流れを押さえたうえで、1 つの授業(シラバス)と DP のつながり、DP の達成の確かめ方、それを支えるデータ整備までを扱う。後半は持参したシラバスを班で読み比べる。

① 到達目標

	区分	到達目標	確かめる場面と達成の目安	研修の DP
01	知識	DP・CP・AP の役割と関係を、自分の大学の DP を例に説明できる。	ワーク Step 2(班で説明し合う) 目安:3 つの方針の役割と、DP から CP、AP へと決まる順序を説明できている	DP1
02	スキル	持参したシラバスの到達目標・評価方法・DP 対応がつながっているかを判断し、根拠を挙げられる。	ワーク Step 2(チェック欄) 目安:3 点それぞれに「つながっている／いない」と、その根拠を書けている	DP1・DP3
03	スキル (思考・判断)	1 科目の成績だけでは DP の達成を示しきれない理由を述べ、別の確かめ方を 1 つ提案できる。	ワーク Step 3(班の案) 目安:理由を 1 つ以上、代わりの確かめ方を 1 つ、班の案として書けている	DP2
04	態度	他大学のシラバスと比べて、自分の大学で確かめたいことを 1 つ決め、誰に何を聞くかを書ける。	ワーク Step 4(持ち帰り) 目安:確かめたいこと、聞く相手、聞く内容の 3 つが書けている	DP3

知識・スキル・態度の 3 つの面から、どれも行動として確かめられる形(説明できる、判断して根拠を挙げられる、提案できる、書ける)で書いた。

授業計画

時刻	内容	主な話題・活動
15:30	導入	今日の到達目標と流れ。DP クイズ(参加大学の DP はどれ？)
	Part 1 なぜ今 DP が問われるのか	DP とは何か、3 つのポリシー、答申と認証評価の歴史、学部ごとの「新たな評価」
	Part 2 DP と 1 つの授業をつなぐ	カリキュラム・マップ、ナンバリング、シラバスの DP 対応欄
	Part 3 DP の達成をどう確かめるか	積み上げ式の限界、直接評価と間接評価、評価方法の 4 象限
	Part 4 確かめるためにデータを整える	4 年間で捉える、データ基盤、ダッシュボード、シラバスもデータ
16:30	ワーク Step 1(10 分)	自己紹介と、そのシラバスを選んだ理由
	ワーク Step 2(10 分)	DP や CP とのつながりを確かめる
	ワーク Step 3(7 分)	その科目の成績だけで DP を示せるか。ほかの確かめ方を班で 1 つ出す
	ワーク Step 4(3 分)	全体で共有し、自分の大学に持ち帰ることを書く

事前・事後学修

事前:自分が重要だと思う授業科目のシラバスを 1 部印刷して持参する。

事後:ワークシート Step 4 に書いた「自分の大学で、誰に何を聞いてみるか」を実際に聞いてみる。

② 評価方法と割合(例示)

何で確かめるか	割合	対応する到達目標
ワークシート Step 2 の記述	40%	目標 01・02
ワークシート Step 3 の班の案	40%	目標 03
ワークシート Step 4 の持ち帰り	20%	目標 04

この研修では成績はつけない。シラバスの書き方の例として、到達目標ごとに確かめる場面と割合を示した。

③ この研修の DP との対応(例として設定)

DP1	教育課程を、DP を起点とした一続きの設計として理解している
DP2	日々の教務の仕事や、学生の学修成果とつなげて考えられる
DP3	他大学の担当者と学び合い、自分の大学の改善に生かせる